

令和元年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

令和2年10月

酒田市（山形県）

○計画期間：平成27年4月～令和3年3月（6年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

中心市街地活性化基本計画に位置付けられた全58事業（令和2年3月30日付変更認定後）の内、21事業が完了、25事業が継続中、7事業が令和4年度までに完了を見込んでおり、未実施は3事業となっている。

令和元年度は、旧割烹小幡改修事業の民間運営者が決定したほか、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業で整備される公共施設（酒田駅前交流拠点施設ミライニ）の先行オープン予定日が、令和2年11月3日に決定した。（なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴う一部資材の納入遅延により、先行オープンは11月28日に延期することを令和2年6月議会で報告した。）また、酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業で整備される新産業会館についても、令和3年夏頃のオープンを予定する等、大型事業の完了時期に一定の目途がついた。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校の臨時休校、公共施設の休館、不要不急の外出自粛、飲食店等への休業要請、酒田港まつり・甚句流しをはじめとする大型イベントが相次いで中止となる等、中心市街地の活性化においても長期的な影響を及ぼすことが懸念される。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 地区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年 度（1年目）	平成28年 度（2年目）	平成29年 度（3年目）	平成30年 度（4年目）	令和元年度 （5年目）	令和2年度 （6年目）
人口	2,627	2,598	2,565	2,537	2,473	2,427	
人口増減数	-55	-30	-53	-29	-41	-35	
自然増減数	-37	-41	-46	-35	-27	-30	
社会増減数	-18	11	-7	6	-14	-5	
転入者数	80	75	73	59	59	59	
転出者数	98	64	80	53	73	64	

※人口については、当該年度1月1日（基準日）時点の数値。人口増減数・自然増減数・社会増減数・転出入者数については、基準日までの1年間の変動数。

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化基本計画は平成 27 年 3 月に内閣総理大臣の認定を受け、5 年間に経過しようとしている。この間、市役所新庁舎や酒田北前横丁が整備され、平成 9 年の大型商業施設撤退以降、未利用地となっていた酒田駅前についても、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業が着実に進み心強い限りである。酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業についても、既存建物の解体工事が進んでおり、新施設がにぎわい創出の拠点となることを期待している。全国的に中心市街地を取り巻く環境は厳しいと受け止めているが官民一体となって、活性化に取り組んでいかなければならないと認識を強めている。

これからは、「施設」ではなく、「人」がキーコンテンツになると考える。魅力的な施設が人を呼ぶことを否定する訳ではないが、人が人を呼び込むことになり、呼び込むにあたっては、空き店舗の仲介や受け皿等の環境づくりを担う人材も必要になる。再開発についても、建物が完成して終わりではなく、どのようなプレイヤーが集まるか、再開発エリア周辺がどのような街になるか見えてくることが望ましい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量	2,718 人 (H26)	2,779 人 (R2)	2,067 人 (R1)	C	④	①
	商店街空き店舗数	99 件 (H26)	83 件 (R2)	79 件 (R1)	A	②	②
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285 人 (H25)	1,648,000 人 (R2)	1,464,453 人 (H30)	C	④	④
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数	363 人 (H25)	953 人 (R2)	695 人 (R1)	B	②	②
	居住人口 (参考指標)	2,651 人 (H26)	2,651 人 (R2)	2,447 人 (R1)	C	②	②

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」

最新値は基準値と比較して△24.0%（△651人）となり、調査地点3か所全てにおいて悪化している。特に大通り商店街前の減少幅が大きく、駅前と中町間の結びつきが弱い状況にある。

今後については、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」、「産業会館多目的ホール・情報センター（仮称）整備事業」により、多目的ホール、情報センター等を含む新産業会館が令和3年夏頃のオープンを予定しており、中町エリアの新たなにぎわい拠点として期待されている。

また、「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」については、酒田駅前交流拠点施設ミライニの令和2年11月28日の先行オープン、民間ホテル及びバンケットのグランドオープンを予定しており、駅前エリアに新たな人の流れが生まれることが期待されることから、目標達成見通しを①とした。

「商店街空き店舗数」

最新値は基準値と比較して、20件改善し、前年度比では19件の改善がみられた。ただし、本結果については、令和元年12月末に複数の店舗が入居した複合ビルが電気システムのトラブルにより閉鎖されたことから、ビル内の物件を集計から除外したことに起因する。なお、前年度値から複合ビルを除いた集計結果と最新値を比較した場合、3件の改善がみられ、これまで中心市街地に無かったジャンルの飲食店が出店、又は出店準備が進む等、新たな魅力が生まれつつある。

一方で、中心市街地をはじめ新型コロナウイルスによる経済活動の低迷等、影響は長期にわたると予想されることから、目標達成しているものの、引き続き事業者支援等の対策を講じる必要があるため、目標達成見通しを②とした。

「観光施設入込数」

最新値（平成30年度累計）は、基準値と比較して△6.8%（△106,832人）となった。平成30年度は、過去最大規模となる外航クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が酒田港へ初寄港する等の好材料により、平成29年度値からの改善が図られたものの、基準値及び前年度値から改善した施設は15施設中4施設に留まる等、目標達成は依然厳しい状況にある。

また、新型コロナウイルスにより、山居倉庫周辺整備事業にかかる酒田商業高校跡地活用の事業者募集が、令和3年度以降に先送りとなったほか、観光施設の休館、インバウンド需要の消滅、首都圏をはじめとする他県からの観光客が減少する等、観光への影響は長期にわたると予想されることから、目標達成見通しを④とした。

「公共・公益施設利用者数」

最新値は、基準値と比較して91.5%（332人）増加した。これは平成29年4月にオープンした中町にぎわい健康プラザの効果が持続しているものと考えられる。また、開設2年目となる酒田市産業振興まちづくりセンターにおいても、コワーキングスペース利用者数・セミナー等開催数が増加しており、中心市街地を訪れる機会が増える等、中心市街地のにぎわい創出に寄与しているものと考えられる。

一方で、新型コロナウイルスの影響により、不特定多数が利用する公共施設については、感染拡大を防止するため、入館者数の制限等の影響が考えられることから、目標達成見通しを②とし

た。

「居住人口（参考指標）」

最新値は、基準値と比較して△7.7%（△204人）、前年度比△38人となった。平成30年度の前年度比△77人と比較すると、減少幅は抑えられたものの、具体的な居住誘導施策については検討段階であることから、目標達成見通しを②とした。

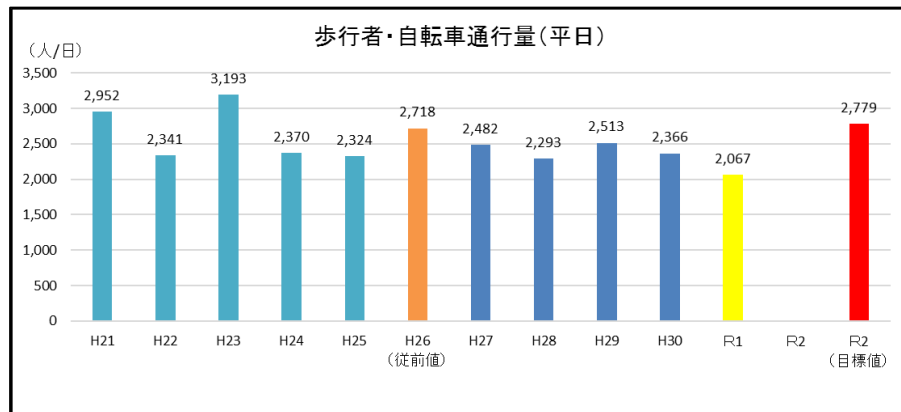
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」について、新産業会館や、酒田駅前交流拠点施設ミライニの整備に目途がつく等、取組の進捗状況は概ね予定どおりとなっている。ミライニの先行オープンと、ミライニを含む再開発施設の内、ホテル、バンケットのグランドオープンが計画期間内に予定されており、新たなにぎわい創出が期待されることから、目標達成見通しを①とした。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,718 (基準年値)
H27	2,482
H28	2,293
H29	2,513
H30	2,366
R1	2,067
R2	
R2	2,779 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年4月の第4火曜日に3地点において7～19時で計測

※調査月：平成31年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の3地点における歩行者及び自転車の通行量

[ジャスコ跡地前、大通り商店街、中町モール]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町モール改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成29年度]
事業概要	中心商店街のシンボリック歩行者専用道路をリニューアル改修し、イベント広場機能や憩いの場としての快適な公共空間として強化整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(湊酒田中心市街地地区(第2期))) (国土交通省)(平成27年度～平成29年度)
事業効果及び進捗状況	平成30年4月の供用開始以降、各種イベントの開催等によりイベント会場としての認知度向上や、夏季は平日でも噴水で遊ぶ家族連れで賑わう等、恒常的な賑わいが生まれつつある。 平成27年度：設計業務 平成28年度：大屋根整備追加を検討 平成29年度：着工 平成30年4月23日：竣工 平成30年4月27日：供用開始 本事業により、20人/日の歩行者通行量増加を見込む。

事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、中町モールで開催予定だった大型イベントも軒並み中止となっており、水遊び施設の利用についても、密集を避けるよう呼び掛けする等、感染予防対策を実施しながら、利便性の向上を図る。
-----------	---

②. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業実施期間	平成25年度～平成29年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内へにぎわい交流施設を整備。中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区）) (国土交通省)（平成25年度～平成29年度）
	平成27年12月：市役所新庁舎第1期工事完了 平成29年6月：市役所新庁舎第2期工事完了 平成30年3月：付帯駐車場、外構整備が完了 施設利用者数：110人/日（平成30年度） 112人/日（令和元年度） 本事業により、歩行者・自転車通行量109人増加を見込む。
事業の今後について	新庁舎内に整備した「にぎわい交流サロン」において、観光パンフレットやイベント情報の掲示を行うことで、待ち合わせや打ち合わせスペース等で気軽に利用し、街なかの回遊に繋がるよう、市民交流や情報発信の場として提供していく。

③. 中町にぎわい健康プラザ整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～平成28年度【済】
事業概要	中心市街地の空きビル（旧パチンコ店）を再生し、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースと、健康づくりの拠点となる健康増進スペースを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）) (国土交通省)（平成27年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	中心市街地において、市民が健康づくりに取り組むことができる環境が整備された。また、施設の利用者や周辺の買い物客などが、気軽に休憩できる場を提供するとともに、イベント等では、隣接する中町モールと一体的に活用することにより、中心市街地のにぎわい創出に寄与している。 平成27年度：設計業務 平成28年度：着工 平成29年2月28日：竣工

	<p>平成 29 年 4 月 9 日：供用開始</p> <p>利用者数：53,350 人（平成 29 年度）</p> <p>64,701 人（平成 30 年度）</p> <p>59,362 人（令和元年度）</p> <p>本事業により、84 人／日の歩行者通行量増加を見込む。</p>
事業の今後について	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、令和 2 年 3 月 4 日から 5 月 10 日まで休館しており、同年 5 月 11 日から利用再開したものの、スポーツジムについては全国で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した施設であることから、施設の消毒等を徹底するとともに、人数制限やトレーニングマシンを制限するなどの感染予防対策を実施しながら、利便性の向上を図る。</p>

④. 食のさかたチャレンジ事業（酒田北前横丁屋台村運営協議会）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	<p>飲食業を志す人を対象に、安価な家賃でのトライアル店舗の開設を実施し、将来の担い手育成、にぎわい創出を行うもの。</p>
国の支援措置名及び支援期間	地域商業自立促進事業（経済産業省）（平成 27 年度）
事業効果及び進捗状況	<p>平成 27 年 10 月：酒田柳小路「北前横丁」屋台村が開業</p> <p>平成 28 年 4 月：10 店舗全てが入居しグランドオープン</p> <p>平成 29 年 10 月：二周年を迎え、来客数 10 万人を達成</p> <p>平成 30 年 10 月：三周年を迎え、来客数 15 万人を達成</p> <p>平成 30 年 12 月：第二期グランドオープン、10 店舗中、3 店舗が新規出店</p> <p>本事業により、94 人／日の歩行者通行量増加を見込む。</p>
事業の今後について	<p>市内外を問わず多くの来客があり、工夫あるイベントを企画・実施する等、まちのにぎわいと活性化を意識した運営を行っており、引き続き来街機会の拡大、にぎわいの創出を図る。</p>

⑤. 花と緑のまちづくり事業（酒田市）【平成 30 年度追加】

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	彩り豊かな花と緑による市街地の美化事業の実施
国の支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度）</p> <p>[認定基本計画：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月]</p>
事業効果及び進捗状況	<p>市民が多く訪れる市庁舎や中町モールヘフラワーバスケットを設置することで、花と緑に市民が触れる機会が増えた。また、市民と協働で制作することで、その技術を自宅でも取り入れ、まち全体で花と緑を増やすことや、まちづくりに携わることによる市民の美化意識の醸成にも繋がっている。</p> <p>平成 30 年度：3 回開催（5,7,9 月）、総参加者数 166 名</p>

	令和元年度：3回開催（5,8,12月）、総参加者数 165 名
事業の今後について	令和2年度については、新型コロナウイルスの影響により中止となった。今後は、類似事業との統合等も含めた事業見直しを図りながら、美化意識の醸成、まちなか回遊の推進を図る。

⑥. 産業会館多目的ホール・情報センター（仮称）整備事業（個人施行者）

【平成30年度追加】

事業実施期間	令和元年度～令和2年度【実施中】
事業概要	市民と企業との協働、交流の場となるホール等の整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 （暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区（第2期））（国土交通省）（令和元年度） 〔認定基本計画：平成31年度～令和2年度〕
事業効果及び進捗状況	令和元年度～令和2年度：既存建物解体工事 令和2年度：新築工事 令和3年夏頃：オープン（予定）
事業の今後について	事業の着実な推進により、市民と企業との協働の場、交流の場となる多目的センターを整備し、来街機会の拡大、にぎわいの創出を図る。

⑦. 情報板整備事業（酒田市）【令和元年度追加】

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【実施中】
事業概要	酒田駅周辺地区への情報板（デジタルサイネージ等）の整備
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業湊酒田中心市街地地区（第3期） （国土交通省）（令和2年度～令和4年度） 〔認定基本計画〕社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（湊酒田中心市街地地区（第3期））（国土交通省）（令和2年度～令和4年度）
事業効果及び進捗状況	令和2年度：情報板設置工事（酒田駅前交流拠点施設ミライニ内） 令和3年度以降：情報板設置工事（酒田駅周辺エリア）
事業の今後について	酒田駅前地区第一種市街地再開発事業の進捗に合わせて、駅周辺エリア及び図書館内へ情報案内板を設置することで、駅前からまちなかへの回遊促進を図る。

⑧. 魅力ある図書館づくり事業（酒田市）【令和元年度追加】

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【実施中】
事業概要	情報板（デジタルサイネージ等）を活用して発信する歴史・文化資源や、食・観光資源、各種イベント情報、生活情報等のコンテンツを作成

国の支援措置名 及び支援期間	都市構造再編集中支援事業湊酒田中心市街地地区（第3期） （国土交通省）（令和2年度～令和4年度） [認定基本計画] 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（湊酒田中心市街地地区（第3期））のうち効果促進事業）（国土交通省） （令和2年度～令和4年度）
事業効果及び進捗状況	令和2年：コンテンツ作成業務委託発注
事業の今後について	本市の歴史・文化資源や、食・観光資源、各種イベント情報、生活情報等を発信することで、酒田市立中央図書館及び各観光拠点施設の利用者増を図り、駅前からまちなかへの回遊を促進し、まちなかのにぎわい創出に繋げる。

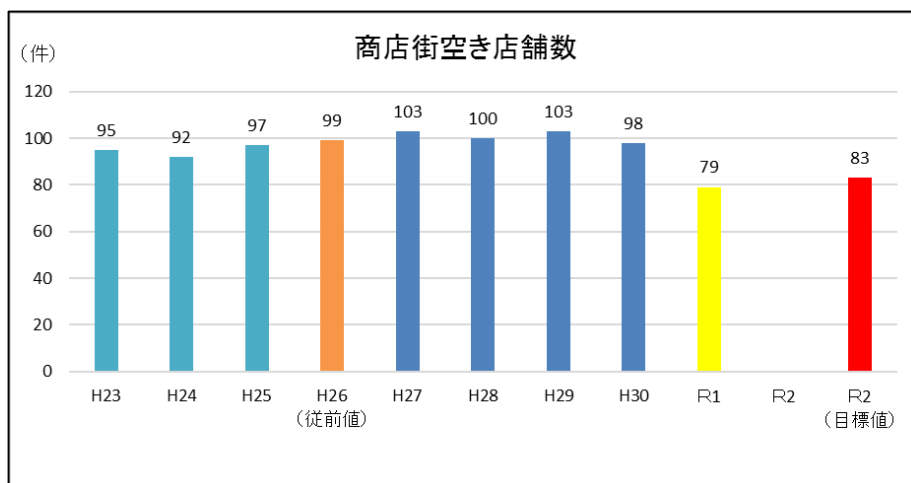
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね完了したが、最新値は基準値と比較して24.0%（651人）悪化しており、調査地点3か所全てにおいて悪化している。特に大通り商店街前の減少幅が大きく、駅前と中町間の結びつきが弱い状況にある。

今後は、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」、「産業会館多目的ホール・情報センター（仮称）整備事業」により、多目的ホール、情報センター等を含む新産業会館が令和3年夏のオープンを予定しており、中町エリアの新たなにぎわい拠点として期待されている。また、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業については、令和2年11月28日に酒田駅前交流拠点施設ミライニの先行オープン、民間ホテル及びバンケットのグランドオープンを予定している。合わせて、令和2年3月変更において追加した「情報板整備事業」、「魅力ある図書館づくり事業」を実施することで、駅前からまちなかへの回遊を促進し、まちなかのにぎわい創出を図る。

「商店街空き店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 73～P. 76 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H26	99 (基準年値)
H27	103
H28	100
H29	103
H30	98
R1	79
R2	
R2	83 (目標値)

※調査方法：商店街の空き店舗、毎年8月に5商店街において現地調査

※調査月：令和2年2月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5商店街における空き店舗数

[中町中和会商店街、中通り商店街、大通り商店街、酒田駅前商店街、協同組合たくみ銀座]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗改装助成事業（酒田市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者、又は当該店舗を賃貸する者に改装費を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年4月～令和3年3月）
事業効果及び進捗状況	<p>各種商店街振興サービスのワンストップ化を図り、官民連携によって開設された中心市街地まちづくり推進センターが事業を展開。目標指標の対象となる商店街においては、平成28年度6店舗、平成29年度8店舗へ交付。</p> <p>平成30年度からは個人、企業間のニーズを繋ぐ「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」の開業支援補助金に包含され、平成30年度15店舗、令和元年度7店舗へ交付。</p> <p>「空き店舗入居者支援事業」と合わせて、空き店舗数の減少15店舗を見込む。</p>
事業の今後について	補助事業のPRを強化しつつ、申請内容のブラッシュアップに注力し、申請件数の増加を図る。

②. 空き店舗入居者支援事業（酒田市）

事業実施期間	平成13年度～平成30年度【済】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者の賃貸借料を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年4月～平成31年3月）
事業効果及び進捗状況	各種商店街振興サービスのワンストップ化を図り、官民連携によって開設された中心市街地まちづくり推進センターが事業を展開。目標指標の対象となる商店街においては、平成28年度4店舗、平成29年度は6店舗へ交付。平成30年度は新規活用なし。 「空き店舗改装助成事業」と合わせて、空き店舗数の減少15店舗を見込む。
事業の今後について	「空き店舗改装助成事業」、「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」の取組により、出店後の負担軽減、マッチング解消等、持続性のある創業を支援していく。

③. 創業促進事業（酒田市・酒田商工会議所）

事業実施期間	平成26年度～平成30年度【済】
事業概要	創業支援センターを開設し、創業相談のワンストップ化や創業塾等を実施し、空き店舗の活用を含めた新規開業を促進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	創業支援事業（経済産業省）（平成26年度～平成30年度）
事業効果及び進捗状況	平成26年9月開設の創業支援センターでは、創業支援コーディネーターがワンストップで対応したほか、開業後のフォローアップも行い、多くの相談が寄せられた。 目標指標の対象となる商店街においては、創業支援を受け、平成28年度8店舗、平成29年度8店舗が新規開業。平成30年度からは「酒田産業振興まちづくりセンター（愛称サンロク）」の創業支援事業に包含され、13店舗が開業。 本事業により、空き店舗数の減少5件を見込む。
事業の今後について	創業塾の開催や、専門家相談を引き続き実施していくことで、空き店舗解消・商店街の魅力向上と活性化を図る。

④. 酒田市産業振興まちづくりセンター整備・運営（酒田市）【平成29年度追加事業】

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	企業間の交流を図る拠点となる、酒田市産業振興まちづくりセンターを整備・運営するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成29年度～令和3年度）

事業効果及び進捗状況	<p>地元企業、農林水産事業者等のニーズとシーズをつなぐ（マッチング）ことにより、様々なプロジェクトを組成するとともに、女性活躍促進、創業支援を実施し、新たな産業やビジネスの創出を活性化するための拠点として、平成30年6月グランドオープン。</p> <p>令和元年度には、マリーン5 清水屋に開設したチャレンジキッチンから、初の新規創業となる店舗が中心市街地にオープンした。</p>
事業の今後について	<p>専門家派遣による支援の推進や、地域経済への効果・貢献度合いが高い事業または意欲的な事業者を発掘する仕組みをつくり、プロジェクト組成件数や創業件数を伸ばしていくことにより、地域経済の活性化をより効果的・効率的に進めていく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

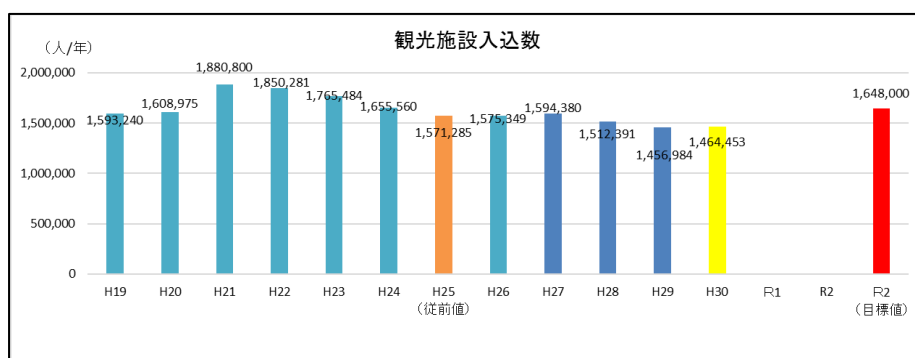
最新値は基準値と比較して、20件改善し、前年度比では19件の改善がみられた。ただし、本結果については、令和元年12月末に複数の店舗が入居した複合ビルが電気システムのトラブルにより、閉鎖されたことから、ビル内の物件を集計から除外したことに起因する。なお、前年度値から複合ビル除いた集計結果と最新値を比較した場合、3件の改善がみられ、これまで中心市街地に無かったジャンルの飲食店が出店、又は出店準備が進む等、新たな魅力が生まれつつある。

引き続き、酒田市産業振興まちづくりセンターによる創業支援等に取り組み、中心市街地への集客、新規出店意欲・投資誘引を図り、空き店舗数の減少を目指す。

また商業店舗としての活用に限らず、空き店舗所有者のニーズに沿った対策や、居住誘導施策への転換も検討する。

「観光施設入込数」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 76～P. 79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	1,571,285 (基準年値)
H26	1,575,349
H27	1,594,380
H28	1,512,391
H29	1,456,984
H30	1,464,453
R1	
R2	
R2	1,648,000 (目標値)

※調査方法：観光施設への入込数、毎年度の実績（累計）を15施設で聞き取り調査

※調査月：令和元年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の15施設における入込数

[山居倉庫（酒田夢の倶楽）、さかた海鮮市場、みなと市場、旧白崎医院、旧燈屋、海洋センター、山王くらぶ、本間家旧本邸、庄内米歴史資料館、海向寺、相馬楼、資料館、NKエージェン ト（旧割烹小幡）、山居館、本間美術館]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山居倉庫周辺整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	本市で最大の観光入込数を誇り、シンボルである山居倉庫の周辺にある低・未利用地において、山居倉庫と一体的な環境整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和3年3月）
事業効果及び進捗状況	平成28年度：旧商業高校跡地活用に関する市民アンケート・サウンディング調査実施 令和2年度：山居倉庫の国史跡指定を文化庁へ意見具申 令和3年度：酒田商業高校跡地活用に係る事業者募集の実施を予定 本事業により、観光入込数の増加36,500人を見込む。
事業の今後について	酒田商業高校跡地の活用にあたって、各分野の有識者や、酒田商業高校跡地に関心を示している団体との意見交換を行いながら、市、地元経済にとって持続可能な事業スキームを構築し、新型コロナウイルス収束後の反転攻勢に向けた新たな需要の喚起、生活様式の変化に対応した事業者募集を早期に実施する。

②. 旧割烹小幡改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成28年度～令和3年度【実施中】
事業概要	映画「おくりびと」のロケ地として注目を集め、その建物の持つ歴史的、文化的価値が見直されている旧割烹小幡を改修し、新たな観光拠点として整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成31年度～令和3年度）
事業効果及び進捗状況	平成27年度：中長期観光戦略策定 平成28年度：市民ワークショップ実施 平成29年度：保存活用方針決定、市民説明会実施 令和元年度：運営予定者決定 令和2年度：改修工事 令和3年度：4月プレオープン、11月グランドオープン予定 本事業により、観光入込数の増加25,000人を見込む。
事業の今後について	魅力的な日和山界隈の観光拠点として整備を進めるとともに、クラフトフェアや酒まつりといったソフト事業との連携も検討していく。

③. 中心市街地循環バス運行事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度【済】
事業概要	公共交通機能を充実させ、中心市街地内の回遊性向上を図るための社会実験として、拠点施設や観光施設を巡回するバスを運行するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	社会実験として平成27年度に事業を実施し、136日間でバス運行を実施。累計3,159人が利用し、全体の約59%が中心市街地内の停留所で乗降しており、観光客の回遊性向上に寄与した。
事業の今後について	エリア間の公共交通見直しによる回遊性の向上を図っていく必要がある。

④. みなと市場まつり事業（酒田市みなと市場テナント会）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	港エリアの観光拠点のひとつである「酒田みなと市場」を生かし、みなとオアシスならではのイベントを開催するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進	平成27年度から酒田市みなと市場テナント会の協力のもと、プ

捗状況	<p>ロレス団体によるチャリティー大会を開催し、毎年 150 人前後の観客が訪れていたが、令和元年度は日程の調整がつかず実施できなかった。</p> <p>本事業により、観光入込数の増加 1, 000 人を見込む。</p>
事業の今後について	<p>みなとオアシスである港エリアへの誘客を図るため、引き続き魅力的なイベントを実施していく。</p>

⑤. 観光戦略・インバウンド推進事業（酒田市）【令和元年度追加】

事業実施期間	平成 31 年度～【実施中】
事業概要	観光誘客に取り組む企業、団体等や、集客が見込めるコンベンション開催を支援するもの
国の支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月）</p> <p>地方創生推進交付金（内閣府）（平成 31 年度～令和 3 年度）</p>
事業効果及び進捗状況	<p>外国人旅行者の受入態勢整備のため、民間事業者の英文ホームページ作成に対する補助金交付や、北庄内地域通訳案内士養成講座等を実施した。</p>
事業の今後について	<p>インバウンドについては、回復期に向けた準備をしながらも、数年の間は国内向け（特に近場、個人旅行、自動車利用）を中心に据え、酒田観光戦略推進協議会を主体に市内の観光事業者と連携し、キャンペーンや体験プログラムなどの着地型観光に取り組む。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

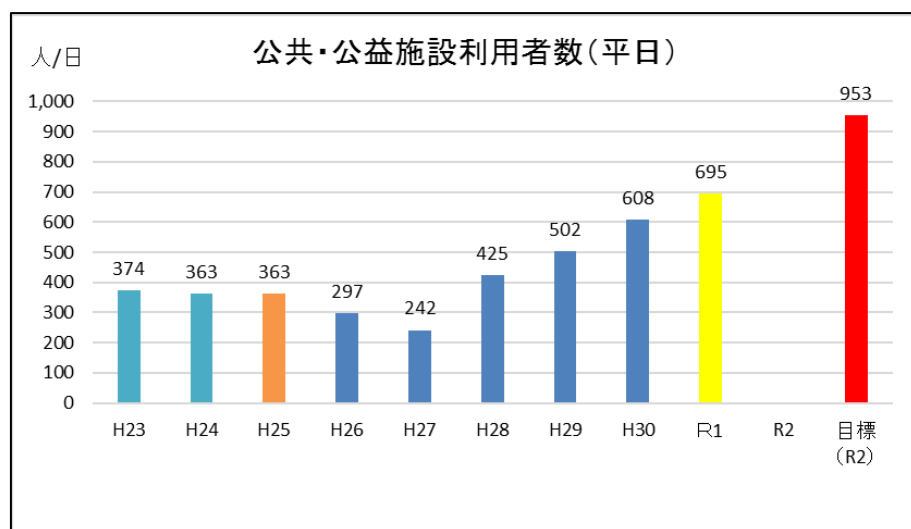
最新値（平成 30 年度累計）は、基準値と比較して△6.8%（106,832 人）となった。平成 30 年度は、過去最大規模となる外航クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が酒田港へ初寄港する等の好材料により、平成 29 年度値からの改善が図られたものの、基準値及び前年度値から改善した施設は 15 施設中 4 施設に留まる等、目標達成は依然厳しい状況にある。

今後について、旧割烹小幡改修事業は、令和 3 年 4 月のプレオープン、同年 11 月のグランドオープンを予定しており、明治時代に建てられた料亭跡を、酒田の歴史や食（洋食）の魅力を伝える施設として整備することで、日和山・台町エリアにおけるにぎわい創出を図る。

山居倉庫周辺整備事業については、新型コロナウイルスによる経済情勢の変化等を注視しつつ、酒田商業高校跡地活用の事業者募集に向けた準備を進める。

「公共・公益施設利用者数（平日）」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	363 (基準年値)
H26	297
H27	242
H28	425
H29	502
H30	608
R1	695
R2	
R2	953 (目標値)

※調査方法：公共・公益施設の利用者、毎年9月の第2火曜日に5施設において計測

※調査月：令和元年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の5施設における利用者数

[交流ひろば、街なかキャンパス（平成31年3月末閉館）、市庁舎（にぎわい交流施設併設）、中町庁舎、中町にぎわい健康プラザ]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町にぎわい健康プラザ整備事業（酒田市）

事業実施期間	平成27年度～平成28年度【済】
事業概要	中心市街地の空きビル（旧パチンコ店）を再生し、市民交流や街なか回遊のための集いのスペースと、健康づくりの拠点となる健康増進スペースを整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）) (国土交通省)（平成27年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	中心市街地において、市民が健康づくりに取り組むことができる環境が整備された。また、施設の利用者や周辺の買い物客などが、気軽に休憩できる場を提供するとともに、各種団体や市主催のイベント等では、隣接する中町モールと一体的に活用することにより、中心市街地のにぎわい創出に寄与している。 平成27年度：設計業務 平成28年度：建築・機械設備・電気設備工事 平成29年2月28日：竣工

	<p>平成 29 年 4 月 9 日：供用開始</p> <p>利用者数：53,350 人（平成 29 年度） 64,701 人（平成 30 年度） 59,362 人（令和元年度）</p> <p>本事業により、200 人／日の利用者増加を見込む。</p>
事業の今後について	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、令和 2 年 3 月 4 日から 5 月 10 日まで休館しており、同年 5 月 11 日から利用再開したものの、スポーツジムについては全国で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した施設であることから、施設の消毒等を徹底するとともに、人数制限やトレーニングマシンを制限するなどの感染予防対策を実施しながら、利便性の向上を図る。</p>

②. 中町庁舎改修事業（酒田市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街に隣接する空き庁舎予定の公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動等の拠点としてリニューアル整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	<p>平成 28 年度：地域の歴史書等を収蔵する光丘文庫が老朽化に伴い入居。</p> <p>平成 29 年度：マザーズジョブサポートセンターが入居。</p> <p>令和元年度：酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業に伴い、酒田市産業振興まちづくりセンターが入居。</p> <p>施設利用者数：43 人/日（平成 30 年度） 66 人/日（令和元年度）</p> <p>本事業により、130 人／日の利用者増加を見込む。</p>
事業の今後について	酒田市産業振興まちづくりセンターについては、令和 3 年度に新産業会館への移転を予定しているため、退去後の活用方針等の検討を行う必要がある。

③. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業実施期間	平成 25 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内へにぎわい交流施設を整備。中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金</p> <p>（暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区））</p> <p>（国土交通省）（平成 25 年度～平成 29 年度）</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成 27 年 12 月：市役所新庁舎第 1 期工事完了</p> <p>平成 29 年 6 月：市役所新庁舎第 2 期工事完了</p>

	平成 30 年 3 月：付帯駐車場や外構整備が完了 施設利用者数：110 人/日（平成 30 年度） 112 人/日（令和元年度） 本事業により、260 人/日の利用者増加を見込む。
事業の今後について	新庁舎内に整備した「にぎわい交流サロン」において、観光パンフレットやイベント情報の掲示を行うことで、来街者が待ち合わせ等で気軽に利用できる市民交流スペースや情報発信の場として提供していく。

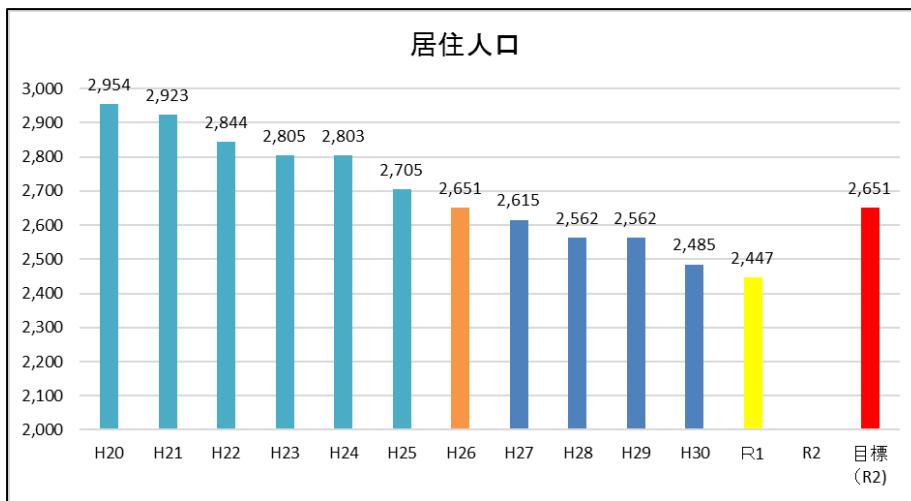
●目標達成の見通し及び今後の対策

最新値は、基準値と比較して 91.5%（332 人）増加した。これは平成 29 年 4 月にオープンした中町にぎわい健康プラザの効果が持続しているものと考えられる。また、開設 2 年目となる酒田市産業振興まちづくりセンターにおいても、コワーキングスペース利用者数・セミナー等開催数が増加しており、中心市街地を訪れる機会が増える等、施設利用に留まらず中心市街地のにぎわい創出に寄与しているものと考えられる。

一方で、新型コロナウイルスの影響により、不特定多数が利用する公共施設については、感染拡大を防止するため、令和 2 年 3 月から 5 月までの約 3 カ月間閉鎖され、今後も消毒や入館者数の制限等、安心して利用してもらうための対策を講じる必要がある。引き続き、市の対応方針や地域の感染状況等を踏まえた感染予防対策を実施したうえで、市民の利便性向上に資する利活用を検討していく。

「居住人口（参考指標）」※目標設定の考え方基本計画 P. 81～P. 82 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,651 (基準年値)
H27	2,615
H28	2,562
H29	2,562
H30	2,485
R1	2,447
R2	
R1	2,651 (目標値)

※調査方法：居住人口、毎年9月末時点での住民基本台帳により12町丁で調査

※調査月：令和元年9月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の12町丁における居住人口

[船場町一丁目、船場町二丁目、日吉町二丁目、幸町二丁目、二番町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、山居町一丁目]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. てとて中町整備事業（株福祉のひろば）【平成27年度追加】

事業実施期間	平成27年度【済】
事業概要	中心商店街に位置する空きビルを再生し、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ等の複合施設として整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	高齢者向け住宅として20戸が整備され、現在14戸が入居。
事業の今後について	フィットネス施設やカフェ等の機能を有しており、中心商店街という立地環境もあわせ、世代を超えた地域コミュニティの増進に引き続き寄与していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

最新値は、基準値と比較して△7.7%（△204人）、前年度比△38人となっている。平成30年度の対前年度比△77人と比較すると、減少幅は抑えられたものの、依然として減少傾向が続いている。

このような中、中心市街地活性化基本計画区域のほとんどを包含した立地適正化計画を令和元

年 7 月に公表し、都市機能や居住の適正な立地促進の考え方を示した。今後は、中心市街地への都市機能や居住の適切な誘導、都市づくりに必要な都市計画決定と状況変化に対応した都市計画の見直し等、具体的な誘導施策の検討を進めていく。